

エコチル調査に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	被験者が 40 歳程度になるまでの調査期間の延長は日本のコホート研究（居住地域や生まれ年など共通の特性を持つ集団であるコホートを一定期間追跡し、健康状態の変化や疾病の発生と各種要因との関連を調べる研究）の発展にとって大変良いが、そのための体制は現行のまま継続されるのか。調査疲れが起こらないか、多少懸念がある。	新たな体制構築は課題となっている。2028 年度の基本計画改定に合わせ新体制の構築を検討している。
	本事業は、国環研の他のプログラムとの連携や協力体制が続々と出てきている。本事業は必ず継続されるべきであり、かつ他プログラムとの連携により、かなり大きくかつ重要な成果が大いに期待できる。	国環研内外との連携・協力が一層図られるよう努力していく。
	まだ PFAS の健康影響の知見が少ないが、昨年度は喘息、川崎病との相関、今年度は、対象数が限られているとはいえ、染色体異常との相関を解析し始めたことは大変評価する。	PFAS 等の注目の高い課題について引き続き積極的に対応していく。
今後への期待など	大規模疫学調査の着実な推進は、大変重要で貴重である。他の国々の大規模疫学調査と目的などの違いを整理する等、位置づけをまとめていることも重要である。	大規模疫学調査としての本調査の位置づけに留意して、引き続き研究を推進していく。
	今年度から始まった「生物多様性と子どもの健康の関連解析」では生物多様性 GIS データを用いた追加調査を行うとのことで、非常に興味深い取り組みであり今後の発展を期待する。	今後とも追加調査を取り入れるなどによって、研究成果の創出に努力していく。
	PFAS と染色体異常との関連については大きな関心と呼んでいると思う。今後の研究の方向性を示されており、その成果を期待したい。	PFAS 等の注目の高い課題について引き続き積極的に対応していく。

エコチル調査に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評	成果は徐々に増えて行っているが、国内の政策の根拠や国外でのガイドラインや条約関連などの資料に使用されるように成果を出し、発信していただきたい。	より有益な成果を出し、発信できるよう引き続き努力していく。
価・質 問など	解析技術などが時代とともに変わってきている中でどのようにデータを活用していくのかについては課題ではないか。	新たな解析方法の検討についても進めていく。
今 後 へ の 期 待 など	非常に大規模かつ長期にわたる疫学調査であり、計画通りに進めるだけでも大変な努力を要すると想像する。着実に調査結果が得られていることに加え、一般社会での関心事項の変化に応じる事業運営の柔軟性も確保されており、今後も継続的な成果が見込まれる。	注目の高い課題について引き続き積極的に対応していく。
	多数者のセンシティブな情報を長期間にわたって取得・管理・利用を継続していくことは大変なことであり、これまで順調に運営されてきていることは高く評価されるべきものである。国際連携を含め、さらに多くの課題について利用が広がることを期待している。	個人情報保護については引き続き細心の注意をもって進めていく。また、環境と子どもの健康に関する国際グループ（ECHIG）における連携を深めていく。
	2023 年 3 月に調査期間の延長が決まったことで、粛々と進めることだと思うが、研究所の利点を生かして、懸念される化学物質（近年では有機環境汚染物質 PFAS、PFOA を加えられたように）を項目に加える等して、継続発展していただきたい。	国環研内外の連携を深め、化学物質に関わる最新の社会的課題を研究に取り入れながら進めていく。